

な き り い し づ
波切の石積み

中部地方の
選奨土木遺産

所在地：三重県志摩市 竣工年：1860(万延元)年頃～1930(昭和5)年頃
認定理由：当地の石工たちが整備した漁港や集落の石積みであり、大王埼を含む波切のまちの発展を支えた貴重な基盤である。

令和4年度登録



① 産屋坂（おびやざか）の石積み：登ると波切漁港と大王埼灯台が眺められる

江戸末期の万延元（1860）年に大慈寺の石垣塀が建造された。整形した石を表面で隙間なく合わせる技法で美しく仕上げられている。これを手掛けた石工の林与吉は、石積みの技術を息子の久平・峯五郎や名人才オトク・コトクなど多数の弟子に伝え、波切の石工と呼ばれる石工集団がこの地に形成された。

周辺は近海航路の難所であると同時に好漁場でもあり、明治末頃には集積する漁船が岩礁と衝突する事故が増えたり小さな漁港で対応しきれなくなるなど、基盤整備の必要性が高まる。

大正7（1918）年に農商務・内務両省より認可を承けた事業として、事業費の半額を国庫補助されて波切漁港が改築することとなり、この時に地元の石工の技術が大いに活かされ、石工集団は300～500人ほどに成長した。その後、石工たちは全国の現場へ出かけて多くの石積工事に携わったと言われている。

大王埼の大岩の上には昭和2（1927）年に鉄筋コンクリート造の白亜の円筒状灯台が建造され、海域の安全が図られた。この基盤部分にも、波切の石積み技術が多いに活かされている。

その他にも起伏の大きい波切の地形に畑地や宅地を開発するために、基盤整備の主要技術として石積みが用いられており、一帯の風景の基調となっている。



② 亥之坂（いのさか）の石積み：空石積みによる盛土擁壁を構成している



③ 大慈寺の石垣塀：林与吉によるとされる



④ 大王埼灯台へのアプローチ（北から）：巨大な擁壁が空石積みで構成されている



⑤ 昭和初期に竣工した波切漁港拡張部分：石は和歌山方面から調達された

